

青年会オンライン総会開催



ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029
北海道岩見沢市9条西6丁目
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com

ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

貴方への手紙 (323)

3月に入って気温がやや上がり雪が溶ける日が増えました。それでも神殿の屋根から落ちた雪は屋根に届いています。この冬は岩見沢市の観測史上2番目の大雪でした。最大だった9年前とほとんど同じぐらいです。3月になって岩見沢では街中の無人家屋が2軒倒壊しました。近くの教会で積雪がひどいところには若い人たちが雪降ろしに行きましたが、どうしても必要なことだったと思います。

この頃、私もコロナと大雪が挨拶代わりになっています。本当はマイナス言葉よりプラス言葉を使いたい。できれば良いことを話題にしたいのですが。

いかがですか？この頃、毎日の生活で嬉しいことありますか？そりゃ無理だよ、今のような時に！と言う人もおられるでしょうね。

実は私もそうなのですが困ったときには心の中の奥の手を出します。父母は大変だったろう

お知らせ

三月月次祭・春季霊祭 3月15日

道の学生オンラインの集い 3月28日 10時30分

教祖誕生祭

婦人会第103回総会 4月18日 参加を支部の代表に限定して行います。

4月19日

なあ！おじいさんおばあさんの時はもつと寒かっただろう！自分が今生きているのは奇跡の積み重ねだなあ！それだけでもありがたいなあ！などと心でくり返します。すると今の世相や自分の思いどおりにならないことなどへの不満がどこかに行ってしまう。地味だけど自分の心の中で折り合いを付けて笑顔を忘れないようにしているのです。

ところで私は今、新聞やテレビの報道を疑うようになりました。人が悪くなったのかもしれない。何でもマスコミの言うことを鵜呑みにしてはダメだと思ふようになりました。年のせいもあるでしょう。

マスコミの言うことには政治や思想が混じっているのだから中立ではありません。左か右か、どちらかの陣営に偏っているのです。自分でよく考えて判断することですね。戦前の洗脳と戦後の洗脳。マスコミは戦後、正反対のことを言うようになりまし。さも昔から正しい

ことを言ってきたかのように平気で言ってます。

どちらの言うことが正しいか正確な判断をするのはとても難しい。私は、なんとなくおかしいと感じる感覚は大事と思うし、よく調べることも大事だと思います。正反対の意見も嫌がらず聞かなければなりません。

自分の物差しが正しいとは限りません。自分の感覚を絶対と思わない方がよい。白紙で物を見るのは本当に難しい。

昨今、ネットで自由に語られる情報の中に正しいものも偽物もあります。なかなか現代は難しい。騙す人と騙される人がいる。危ういこと。自分だけで判断するのは危険です。話し相手が必要。変だな？と思ったら誰かに話すべきでしょう。

3年前から夕張大教会活動方針「今できることがある！」を掲げています。自分にできることがきつとある。自分だからできること、自分にしかできないことがきつとあると。自分で見つけて主体的に実践しようとい

う意味です。何か人さんの喜びに繋がること、笑顔になつてもらえることを一つでもしたいものです。まもなく北国の春です。お元気で！

3月8日記

二月月次祭の様様

今年の岩見沢は豪雪で、2月に入つてもその勢いは止まず、もう数センチで記録更新というところまで雪が降った。中旬になると一転、雪は落ち着いたものの気温が急上昇して落雪が相次ぎ、これまた除雪の作業に追われる毎日であった。その一方で幹線道路の雪解けが進んでアスファルトが剥き出しになり、遠方への移動は比較的楽な道路状況であった。

迎えた15日、溜まつた雪で駐車スペースが削られ、大教会の前庭は車ですし詰め状態となっていた。定刻の9時半から開扉・献饌。のち祭文奏上。続いて座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。2月にしては温度は幾分高く、感染対策の為に定期的に行われた換気も、どこか心地よさを感じる程の陽気であった。

講話には藤田大和役員が立ち「今年の6月に六代会長のお許しを頂くお運び、また9月4日に奉告祭という予定です。ま



まだまだ先行きがつかめず、話し合いもできないような状態です。何より私自身も、自分に物足りなさをとて感じております。

この間、元気をもらえることがありまして、去年の12月の終わり、3年生の娘が帰ってきたら嬉しそうに顔しまして『今日の帰り道一番嬉しかった』って言うのですね。どうしたのって聞いたら『いつも帰る時道が狭いから、大人の人が歩いてきたら止まって譲っていたんだけど、大人は多分よそ見してるんだと思つて何も言ってくれない。でも今日お姉さんがお辞儀してくれて、すっごく嬉しかった』それで娘が最後に『小さな親切してくれて良かったな』って思つて、今までで一番嬉しかった。って言うので、親として胸がいっぱ

いになりました。神様も同じじゃないかな、という風に思いました。子供が何かしたら嬉しくなるのは、やはり神様も同じだろう、と。子どもから勇気をもらいまして、また自分に出来る限りのおたすけを進めていき、9月の奉告祭を迎えたいと思つていきます。

本部青年会の1月の例会で青年会長である中山大亮様が生きたオデッセイを出されました。この場をお借りして紹介させていただきます。この場をお借りして紹介させていただきます。この場をお借りして紹介させていただきます。この場をお借りして紹介させていただきます。



『このたった1年で、私たちの今までの当たり前は、当たり前ではなくなりました。私たちは今、神様から変化することを求められています。じゃあどう変わればいいのか。今こそ私たちは、教祖の教えに立ち返り原点回帰する時だと思つていきます。時代は変わりましたが、もう正解は一つではありません。今私たち、あらしとどう向き合

新しいお道を作る実験台になりましょう。』

そこから青年会長様は、私の夢ということでお話をされました。『おちばに陽気ぐらし村を作ることで』とおっしゃいました。様々な困難を抱えている方々が生き生きと暮らせるおちばにしたい、と。具体的には生活困窮者のためのシェルターハウスや引きこもりの方のためのシェアハウス、またはゆつくりくつろげるカフェ、子供たちが勉強できるような場所、小さなお子さんが遊べる遊具など、夢の広がる話でした。

『どんなことでもやってみて、失敗してもいいからやってみよう。』そして『そのすべてはそれが目的ではなく、心の助けかりへ向かっていただきた目的です』とおっしゃいました。そこから声をかけ、神殿のおたすけや修養科へとお誘いして行きましょう、そして助かりたい人が助けてい心に変わっていつてもらいたい、と。

青年会長様がおっしゃる天理教の強みとは『おちばには助けが必要あり、圧倒的な求心力がある』という事です。『おちばが変われば天理教は変わる、おちばも変わります皆さんも変わっていきましよう』とおっしゃいました。青年会長様は最

暮らしと信仰

風の守護

冬型の気圧配置は、西高東低と決まっているが、今年の冬の豪雪は、北海道の北・オホーツク海に低気圧、高気圧が日本海でも秋田沖くらい、北海道にとつて南西高、北東低という配置の時に、猛烈に吹雪いた。

W低気圧は反時計回りの風が吹き、高気圧は時計回り、ちようど北西や西の湿った冷たい風が、石狩湾から夕張山地や大雪山にぶつかつて、雪をドカッと降らせ給うた。

イソップ童話に、北風と太陽の話がある。北風は厳罰主義で、太陽は寛容の喩えにされるが、北国の人間は、神様に厳しい試練を与えられ続けているかのよう、なんとも好ましくない。太陽の恵みの少ない所の人間のヒガミなのか。

この2月末、3ヶ月ぶりにおちばに向かう機上の人となった。いつも佐伯泰英という時代小説家の浪人モノの本を読むか、寝てるか、空を見ている。

雲は不思議である。水蒸気の粒でしかないのに、固まり具合で色々な姿、形になり、色も異なる。

後に三つの事を皆様にお持ち帰りくださいということ、『夢を持ち信じる』、『自分で考えて行動すること』、『失敗を恐れず挑戦すること』を言われまし。何がやりたいのか、どんなお助け、どんな教会にしたいのか一緒にゼロから考えましよう、と結ばれました。

自分がこれからどうしていいのかわからない中ですが、この若きリーダーの青年会長様、そして真柱様の後についていきたいと思っております。まだまだ遅い歩みではございますがこれからも一生懸命頑張りますのでどうぞ皆様宜しくお願い致します」と話した。

大教会長はあいさつで「9月4日の奉告祭ですが、実行委員会が出来まして、そこでどんなに進めていってほしいかと思っております。1月に真柱室長に会いに行きました。この度の奉告祭に、真柱様のご臨席をお願いしておりますが、現状としてはどうなるかわからないとの事。昨年の3月以来、真柱様も大亮様も奉告祭・記念祭にはご臨席されていないようです。動向によつて準備も大幅に変わるので、そこが大変な部分ですが、どうしようもないですね。我々に来るのは心作りですね。その日までたすけ心をつ

にしていきたい。そして当日それを見て頂きたい。神殿にご揮毫が二つ掲げられています。『一歩前進』『元一日』まさにこれが大事ですね。元一日を辿つて、前進しかありません。

ワクチンの接種が始まります。先ずは医療従事者、次に高齢者、そして5、6月には全国民が接種する段取りになっているようです。私は今までもインフルエ



ンザワクチンを打った事がなく、今回のワクチンもあまり気乗りしなかったのですが、友人が言うに『自分が一つの防波堤になるんだ』という話を聞いて、スッキリしました。自分が打つ事が人の為になるんだと知り、接種する気持ちになりました。

コロナウイルスの流行から一年。たった一年ですが、社会もお道も色々変わることが多いです。今させて頂いているオンライン配信もその一つです。参拝に出来ない方の為に始めた事ですが、日本中、世界中のどこからでも参拝が出来るようになり、喜んでくれる方も多

聞きます。困難な中ですが、新たな喜びもある。日々、喜びを少しでも感じながらお通り頂きたいと思えます」と述べられた。

夕張の礎・その2
『鼓笛隊の思い出』
西尾 正行

鼓笛隊の初期は、常時活動を作るんだ、と教区の鼓笛講習会に行ってきた青年さんがいつもの指導者でした。好道さんや中村の信ちゃん、実さんが教える事といえばファイフのドレミなど基礎ばかりで、あまり面白くなく、当時の事務所の奥の部屋で、富山睦ちゃん、渕野澄恵ちゃんたちと紙相撲で力士の名前を付けたり、腕相撲したりとふざけてばかりいたように思います。

門の西側に外のトイレがあり、その横の少年会館での練習より、神殿の中庭の芝生の上など、屋外で練習した事が気持ち良かったと思ひ出されず。

当時、こどもおぢばがえりでもおやさとパレードは無く、天理プールのプールサイド行事での発表でした。夕張だけでは人数が足りなかつたので、札幌支部の人達と一緒に、何故か天理市内を行進したりしました。結局本番は、当日雨が降って中止になって喜んでいたので思い出



します。今となれば普通に出来たら良かったと思うのですが。もしかしたら、天理市内を歩いていたのは少年ひのきしん隊の時だったかもしれません。また、鼓笛の練習だったのか、隊長クラス練成会だったのかも。大教会にある少年会の写真を見せられたら、また思い出が広がるかもしれません。その頃から、何せ40数年、それだけの年月が経っていることに驚きますね。

昼過ぎに新千歳を発つて関西空港に向かうルートは、日本海を南下して鳥取砂丘が見える上空から、中国山地を超え、瀬戸内海に臨む。岡山の児島湾から夕景となり、小豆島や塩飽の島々が浮かび上がり、雲は紅に染まる。

しかし、風はめまぐるしく天候を変え、僅かな時間で、閑空では突風がコートをもぎとろうとした。

かんろだいづとめでは、髪の毛がなびいたようなお面を冠つた・かしこねのみこと様が、左から右に風がなびくお手をされる。風のご守護は、変化することそのものでもある。



訃報

北夕分教会七代会長
矢野良一様(享年85歳)



去る2月23日、北夕分教会七代会長、矢野良一先生が御出直しなされた。享年85歳。先生は北夕初代会長、矢野安吉の曾孫にあたり、中学卒業後、神戸の兵神大教会に7年間住み込み、その後も夕張分教会(当時)に青年として約10年に渡る住み込みを経て沙留

の地へ戻られ、昭和46年に会長となられた。大教会の神殿正面と玄関、第二客殿玄関は新しいが他の鬼板は、約60年前に大工の佐々木喜代治氏と矢野良一先生によって彫刻されたものである。夕張から遠く離れた地で、妻の美栄子夫人と共に力を合わせ、信者さんのご丹精に尽くし切られ、平成6年にはご自身の大工の技術も活かし、現在の北夕分教会神殿の普請も成し遂げられたが、一昨年十月、脑梗塞の身上となられてよりは療養に励んでおられた。これまで夕張直轄教会長として長年ご尽力下さいました先生に誌上から厚く御礼申し上げます。有難うございました。

訃報

峰延分教会二代会長夫人
梶川ユキ様(享年110歳)



去る3月3日、峰延分教会二代会長夫人、梶川ユキ様が御出直しなされた。享年110歳。明治45年生まれ。夕張の歴史上最長齢で、昨年秋頃に体調を崩されるまでは変わらずお元気で、食事も三食召し上がられ、歩くのに杖も要らなかつたとの事。また、つい先日まで峰延の月次祭や部内教会の

月次祭で拍子木をつとめておられ、十二下りをお一人ですつとめられるご様子は誰もが驚くべき壮健さであった。昭和7年に峰延二代会長 梶川朗先生とご結婚なされてより、激動の戦中、戦後の暮らしの中も夫を支え、教会を支え、役員信者さん達と手を取り合い、たすけ一条の道に人生を捧げられた。峰延分教会に三代真柱様がお入込下さった時、紫色の着物でお迎えなされたユキ様の笑顔が今も鮮やかに思い出される。これまで永の間大教会の御用の上にもつとめて下さいましたユキ様の御遺徳を偲び、誌面ながら厚く御礼申し上げます。有難うございました。(写真は満106歳、月次祭の後)

青年会夕張分会
オンライン総会

やはり中止か。そんな思いも何度となく頭をよぎった。しかし、6代会長就任奉告祭を控える今、少しでも大教会に心を寄せてもらいたい。青年会員の心を一につにしたい。その思いを形にするべく、本年は初となるオンラインで第37回青年会夕張分会総会の開催となった。

今回は、ビデオ会議システム「ZOOM」を使用し、参加者お互いの表情が見えるようにした。また、幅広く閲覧してもらうためYouTubeで同時配信し、大教会グループLINEで告知も行った。

会場となる大教会神殿には、青年会員は総務部のメンバーのみ。普段のにぎやかな総会とは全く違う雰囲気ではあったが、画面越しに、一人またひとりど参加会員の顔が見えるたびに、なんとなく顔がほころぶ。それと同時に緊張感も増し、大きなハプニングなく、無事に総会を



終えられるようにと、自然と心の中で手を合わせた。2月13日午後7時、青年会夕張分会総会が始まった。

最初に、会長就任を控える藤田大和前青年会委員長を芯に、新型コロナウイルス収束を願うお願いとめがごとめられた。拍子木の音に合わせて、全国各地の会員が、心一つに事態の収束を真剣に願う。続いて、開会宣言、それに続き青年会長のビデオメッセージを拝見した。青年会

長様は、各自の徳分を生かし何事も楽しむことの大切さを強調され、それぞれの立場において様々な思案を重ねる貴重な機会をいただいた。そして、大教会長様御祝辞、藤崎勇新青年会委員長あいさつ、あらいきとうりよう指針唱和、閉会宣言と続き、最後に青年会の歴史をまとめた振り返りビデオを視聴し、総会は終了した。

その後、これまたオンラインでちよつと遅めの新年会。10名ほどの会員が1つの画面の中でお互いの近況を伝え合った。久

しぶりの再会を果たす中、青年会員のみなならず夫婦や子供連れの参加、またオンラインの一番の魅力である、全世界どこからでも参加できるというメリットを生かし、道内はもちろん、天理や福岡からも参加者が集い、普段とは一味違う賑わいを見せた。

庶務部 2月

- ▽初席者
 - 伊藤 勇太(祝 梅) 1・8
 - 富山 優理(栗 山) 2・11
 - 渡部 孝徳(善進道) 2・11
- ▽教人資格講習会・全期間受講
 - 高橋都志子(祝 梅) 2・27
 - 梶川 郁美(新生) 2・27
- ▽詰所教養掛
 - 2月 梶川創一郎(新生) 3・13
 - 3月 松下 勝彦(神 富)
 - 4月 富山 知一(栗 山)

大教会日誌抄 2月

- 1日 災救隊除雪ひのきしん
- 2日 たすけ推進会議(LINE)
- 13日 青年会総会(オンライン)
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 22日 会長、おちばへ
- 24日 会長、本部神殿当番
- 26日 本部月次祭
- 27日 遥拝式
- 28日 かなめ会
- 会長、おちばより帰会